

# 建設の安全

# 10

建設業労働災害防止協会

- **創立45周年記念全国建設業労働災害防止大会開催**
- **わが社の安全 過去から学び、現在及び未来に繋げる安全管理**
- **建設工事の安全衛生基礎講座 感電災害の大きな要因は無知と無視**



# 信頼と実績の理研計器

## 小さいけれど、大きな安心

大好評のマルチガスモニターシリーズ

### ポンプ内蔵のハンディサイズ

パーソナルマルチガスモニター

### GX-2003



### 手の平サイズで高性能

ポータブルマルチガスモニター

本質安全防爆構造 GX-2009

### 据付工事なしで最大240時間測定

トランスポートブルマルチガスモニター

### GX-3000



# O<sub>2</sub> · CO · CH<sub>4</sub> or HC · H<sub>2</sub>S

安全の心を伝える理研

## 理研計器株式会社

本社 〒174-8744

東京都板橋区小豆沢2-7-6 TEL(03)3966-1111(営業本部)



RIKEN KEIKI

■ 営業所

札幌 (011) 733-7505 / 仙台 (022) 261-1666 / 鶴岡 (0235) 28-3156 / 水戸 (029) 248-6151 / 埼玉 (048) 548-8711

千葉 (043) 214-3565 / 神奈川 (044) 355-8631 / 厚木 (0463) 92-6971 / 浜松 (053) 437-9421 / 名古屋 (052) 411-3636

四日市 (0593) 33-7221 / 金沢 (076) 226-8247 / 大阪 (06) 6350-5871 / 神戸 (078) 261-3031 / 水島 (086) 446-2702

四国 (0897) 37-3775 / 広島 (082) 875-4151 / 徳山 (0834) 28-6144 / 福岡 (092) 691-6372 / 熊本 (096) 373-1230

大分 (097) 523-3811

URL <http://www.rikenkeiki.co.jp>

## 建設の安全 10

## ■表紙のことは

—イタリア アッジ サンフランチェスコ聖堂—  
アッジはイタリア中部にあるローマ帝国時代からある城壁のある古い街で、標高約1,300メートルの山の中腹に広がる。聖フランチェスコの生誕の地として知られる。  
街の西側にあるサンフランチェスコ聖堂は、山の斜面を利用して上下二段に分かれており、上部はゴシック様式、下部はロマネスク様式と異なっている。内部はイタリアの有名な画家の手によるフレスコ画が多数描かれている。1997年に発生した地震で大きく損傷したが、修復工事により2000年には元の形に戻った。

2000年 世界遺産登録

## ■特集

## 創立45周年記念全国建設業労働災害防止大会

大会スローガン：みんなで取り組む先取り安全 めざすは職場の危険ゼロ

／建設業労働災害防止協会

大会初日（10日・総合部会）	3
安全衛生功労者表彰・顕彰等	3
安全の誓い	5
／野中 格 大会副実行委員長	
大会2日目（11日・専門部会）	6
／コスモス部会、土木建築施工部会、安全衛生教育部会、専門工事部会、住宅部会	

祝 辞	11
／舩添 要一 厚生労働大臣	
祝 辞	11
／金子 一義 国土交通大臣	
建災防 銭高会長挨拶	12
歓迎のことは	12
／大島 義和 大会実行委員長・建災防東京支部長	

■第47回 全国建設業労働災害防止大会——13  
研究発表論文を募集!!

／建設業労働災害防止協会

■安全衛生保護具・機器コーナー——16  
「防振手袋」の選択・使用方法及び保守管理について

／社団法人日本保安用品協会所属・株式会社シモン 桑貝 毅

■安全衛生保護具・機器コーナー——18  
防音保護具の選択方法及び効果的な使用方法について

／社団法人日本保安用品協会所属・興研株式会社 堀口 展也

■わが社の安全——20  
過去から学び、現在及び未来に繋げる安全管理

／前田建設工業株式会社 加藤 正勝

## ■建設工事の安全衛生基礎講座——24

感電災害の大きな要因は無知と無視

—感電災害の防止対策等—（その1）

／日本ファシリオ株式会社・建災防セーフティエキスパート 向坂 知律

## ■健康管理コーナー——28

メンタルヘルス—（その3）—

／横浜労災病院 山本 晴義

## ■建災防の活動——30

## ■支部の活動——32

## ■災害統計——36

## ■建災防からのご案内■

■講習会のご案内——34

## TOPICS

編集部から

●本年は当協会が創立45周年を迎えたことから、9月10日、11日の両日、東京国際フォーラム等にて、「創立45周年記念全国建設業労働災害防止大会」を開催いたしました。本大会には、全国各地から会員をはじめ、関係者、延べ5,500名の方々にご参集いただき、盛会裡に閉会となりました。ここに厚く御礼申し上げます。（本誌2～12ページ）

●来年は「第47回全国建設業労働災害防止大会」として、10月21日、22日の両日、宮城県仙台市の仙台市体育館にて開催いたします。全国規模である当

会は、建設業関係の方々が一堂に会して安全衛生に関する情報やノウハウを共有できる良い機会でもあります。ぜひこの大会にご参集ください。

●また、来年の「第47回全国建設業労働災害防止大会」の、「大会研究論文」を広く募集しております。各社の建設事業所の安全衛生活動についての成果を広く広報できる機会でもあります。詳しくは、本誌13ページもしくはホームページ（<http://www.kensaibou.or.jp/>）をご覧ください。

2009.9.10、11

創立45周年記念

# 全国建設業労働災害防止大会開催!!

全国から延べ5,500名が参集!!



『創立45周年記念全国建設業労働災害防止大会』が9月10日(木)〈総合部会〉、11日(金)〈専門部会〉東京国際フォーラム等において、全国から延べ5,500名と、多数の会員はじめ関係者が参加して開催された。

本大会のスローガンである、

**「みんなで取り組む先取り安全 めざすは職場の危険ゼロ」**

のもと、初日の総合部会および二日目の専門部会を通じて、「リスクアセスメント」の確実な実施と「建設業労働安全衛生マネジメントシステム(コスモス)」の導入・実施などにより、職場の危険を先取りし、労働災害の絶滅を図ることを共通のテーマとして、全国の関係者が一堂に会し、安全衛生管理活動に関する情報とノウハウの共有を図った。

『総合部会』の開会に先立ち、アトラクションとしてヨコハマ ロビンズによる「マーチング演奏」が披露され、オープニングを飾った。

式典の冒頭、建設業の労働災害により尊い命を失われた御霊に黙祷を捧げた後、当協会銭高会長が次のように挨拶をした。

『建設業における労働災害は、長期的に着実な減少をみており、特に死亡災害について平成20年は430人と、昭和39年の協会創立から45年で約82%もの減少となっている。



挨拶される銭高会長

これらも、本日までご参集の皆様をはじめ、会員各位の労働災害に寄せる熱意と地道な安全衛生活動の積み重ねによるものである。皆様の長年にわたる労働災害防止活動への熱心な取り組みに対し、改めて敬意を表するとともに、心より感謝を申し上げたい。

そして、「みんなで取り組む先取り安全 めざすは職場の危険ゼロ」の大会スローガンのもと、二日間にわたる総合部会および専門部会、ならびに保護具等の展示会を通じて、安全衛生意識の高揚と安全衛生管理に関する情報やノウハウの共有を図ることとしたい。』(銭高会長の挨拶は、12ページを参照。)

続いて、来賓として、平野 良雄 厚生労働省労働基準局安全衛生部長(舛添 要一 厚生労働大臣祝辞名代)、小澤 敬市 国土交通省建設流通政策審議官(金子 一義 国土交通大臣祝辞名代)による挨拶が行われた。(厚生労働大臣ならびに国土交通大臣の祝辞は、11ページを参照。)また、当協会副会長で、開催地東京支部長でもある大島義和大会実行委員長は歓迎の言葉を述べた。



祝辞を述べられる  
平野 良雄 厚生労働省  
労働基準局安全衛生部長  
(舛添 要一 厚生労働大臣  
祝辞名代)



祝辞を述べられる  
小澤 敬市 国土交通省建設  
流通政策審議官  
(金子 一義 国土交通大臣  
祝辞名代)



歓迎の言葉を述べられる  
大島 義和 大会実行委員長  
(東京支部長)

このあと、銭高会長より永年にわたり建設業における安全衛生活動に顕著な功労のあった方々に対する「安全衛生表彰」が行われ、各賞代表者に銭高会長より表彰状が授与された。

次に、労働災害防止のための優秀な発明・考案をされた2名の方々に「顕彰基金による顕彰」が行われ、受賞者に銭高会長より表彰状と副賞が授与された。

また、興研株式会社 代表取締役社長の、酒井宏之氏に対し、建災防の目的を理解され、活動資金を義捐し、建設業の安全衛生水準の向上に多大なる貢献をされたことから、感謝状が銭高会長より贈呈された。

## 1. 安全衛生表彰

### 個人賞

#### (1) 功労賞 (計115名)



鈴木 昇氏  
(株)長南工務店



オープニングのアトラクション「マーチング演奏」  
(YOKOHAMA ROBINS)

(2) 功績賞

①委員会委員等 (計45名)



秋山 昭利氏  
㈱秋山建設

②工事現場 (計98社)

岡・今津特別建設共同企業体  
浜山第6地区優良建築物等整備事業工事



③団体 (計2団体)

升川建設㈱協会安全衛生担当者協議会



②所長 (計32名)



中田 利紀氏  
宮坂建設工業㈱

③安全衛生推進者 (計63名)



石岡 良治氏  
清水建設㈱  
関西事業本部

④職長 (計59名)



高橋 誠二氏  
㈱大山工業

2. 顕彰基金による顕彰 (計2名)

(1) 「リスクアセスメントで災害ゼロ」



武田 美治氏  
武田建設㈱

(2) 「養生蓋ユニット (コンクリート床の開口部の養生蓋)」の開発



石部 博史氏  
㈱京都知財倶楽部

優良賞

①会社 (計124社)

㈱武山興業



※受賞者および表彰規定などにつきましては、大会当日配布の「創立45周年記念全国建設業労働災害防止大会資料集」をご参照ください。

### 3. 感謝状授与(計1名)



酒井 宏之氏  
興研㈱

続いて、野中 格大会副実行委員長が「リスクアセスメントの確実な実施と機械・設備の安全確保」など3項目を柱とした「安全の誓い」を宣言。参加者一同、労働災害の撲滅を目指し、決意を新たにしました。

## 安全の誓い

建設業の労働災害は、関係者の努力により長期にわたって減少を続け、平成20年の死亡災害は過去最少の430人となりました。

現下の建設業界を取り巻く環境は、従来にも増して厳しい状況にあります。今後、建設産業が基幹産業として健全な発展を続けて行くためには、経営トップをはじめ関係者が安全衛生意識を共有し、力を合わせて安全衛生水準の一層の向上に取り組むことが重要であります。



「安全の誓い」を宣言する  
野中 格 大会副実行委員長

したがって、私たちは、本日の創立45周年記念大会を契機として「人命尊重」の基本理念のもと、一丸となって、

- 一 リスクアセスメントの確実な実施と機械・設備の安全確保
- 一 コスモスの導入・実施による計画的な安全衛生管理の推進
- 一 安全衛生教育の一層の推進

を重点に、積極的な労働災害防止活動を展開し、誰もが安全に安心して働くことができるよう危険ゼロの職場をめざし努力することを誓います。

平成21年9月10日

創立45周年記念全国建設業労働災害防止大会

このあと、平野 良雄 厚生労働省労働基準局安全衛生部長より「最近の労働安全衛生の動向について」と題した講演が行われた。続いて、建築家で東京大学名誉教授 安藤 忠雄氏による記念講演「建設業の責任」が行われ、聴衆は熱心に聞き入っていた。



講演を行う平野 良雄 厚生労働省労働基準局安全衛生部長



記念講演を行う建築家・東京大学名誉教授 安藤 忠雄氏

一方、東京国際フォーラム地階展示ホールでは、「建設業労働災害防止協進会」による安全衛生保護具・測定機器・標識などの「展示会」が大会開催期間中に開催された。

ここでは、最新の保護具や機器などの使い方を実際に手に取って体感できることから、参加者と活気にあふれたやり取りが行われていた。また、安全帯・保護具・ガス検知器の体験コーナーなども好評を集め、当協会 錢高会長や大島副会長（東京支部長）も見学に訪れていた。



展示会場を訪れた  
錢高会長（写真中央）

展示場で  
防じんマスクを試す  
大島副会長（写真左）



## 大会2日目(11日・専門部会)

大会2日目の『専門部会』は、「コスモス（建設業労働安全衛生マネジメントシステム）部会」、「土木建築施工部会」、「安全衛生教育部会」、「専門工事部会」、「住宅部会」の5部会が催され、各会場での安全衛生活動に関する研究発表やシンポジウムなどのほか、文化人・著名人らによる講演など、多彩なプログラムが展開された。

「土木建築施工部会」などでは、厚生労働省安全課の田中 敏章 建設安全対策室長、吉田 哲 主任技術審査官、船井 雄一郎 技術審査官から本年6月から施行の「改正労働安全衛生規則（足場等関係）について」、リスクアセスメントの確実な実施に重点を置いた自主的な安全衛生対策の必要性について講話が行われた。また、「土木建築施工部会」では、国土交通省関東地方整備局企画部の河田 博之 工事事質調整官から「工事事故の現状と公共事業の最近の話題」と題し、公共工事の発注者側としての講話が行われた。

### コスモス部会

よみうりホール 参加者 約400名

発表 「見せるのは今、プロとしての自覚と誇り、皆でつくろう災害ゼロの爽やか現場」  
—「見える化」運動の推進と自立型安全の促進により現地で実践するCOHSMS—



清水建設(株)  
東京建築第二事業部  
統括(2)群  
(仮称)ユニカ新宿ビル  
新築工事作業所  
所長 中川 収氏

発表 「クレハ錦建設コスモス導入の取り組みについて」  
—コミュニケーションの推進—



クレハ錦建設(株)  
第二事業部  
第一建築工事部  
工事所長  
小林 保史氏

発表 「安全衛生管理活動におけるリスクアセスメント導入事例」—(仮称)新大曲中通病院建設工事の例—



(株)間組 東北支店  
大曲中通作業所  
所長 野堀 俊之氏

発表 「労働安全衛生マネジメントシステムに基づいた安全管理について」



大成建設(株) 北信越支店  
大成・佐藤特定建設工事  
共同企業体  
庵谷橋アーチ橋工事作業所  
所長 宇野 正修氏

発表 「標準化した安全衛生管理について」  
—一店社における安全衛生管理計画の策定、実施、点検等—



東レ建設(株) 三島支店  
三島安全管理課 課長  
小幡 隆氏

発表 「コスモスで災害を減らそう」



建設業労働災害防止協会  
技術管理部長  
高橋 元氏

発表 「安全パトロールにリスクアセスメントの手法を導入」



北野建設(株) 東京本社  
安全管理本部 部長  
新保 修司氏

シンポジウム 「認定に向けた私たちの行動」  
 司 会：建設業労働災害防止協会  
 コスモストラクチャルサービスセンター  
 システム企画課長（安全管理士）  
 藤丘 育生氏  
 パネラー：五洋建設(株) 安全環境本部  
 副本部長 菅原 博氏  
 前田建設工業(株) 総合監査部  
 システムグループ長 伊藤 正氏  
 初雁興業(株)  
 安全室長 根本 実氏  
 平岩建設(株) 取締役  
 専務執行役員 平岩 敏和氏  
 オーク設備工業(株) 取締役  
 安全環境部長 柴田 秀夫氏



左から、柴田、平岩、根本、伊藤、菅原、藤丘の各氏

講演 「“その時歴史が動いた”の現場から」



元NHKキャスター  
 早大・立大大学院  
 客員教授  
 松平 定知氏

**土木建築施工部会** 東京国際フォーラム（ホールB7①） 参加者 約330名

発表 「[現場の危険があぶない] 全社防災活動について」



石川建設(株)  
 取締役常務執行役員  
 工事本部 本部長  
 栗原 眞澄氏

発表 「ハッ場ダム工食用トンネルにおける労働災害の防止」



戸田建設(株) 関東支店  
 ハッ場ダム工食用トンネル  
 作業所 工事主任  
 山口 礼介氏

発表 「作業所における日常の安全衛生管理活動に関して」



大成建設(株) 関東支店  
 土木部 土木室長  
 山村 徹氏

発表 「安全管理士活動について」  
 —管理士の活用をお願いします。—



建設業労働災害防止協会  
 主任安全管理士  
 山崎 弘志氏

講話 「工事故の現状と公共事業の最近の話題」



国土交通省  
 関東地方整備局 企画部  
 工物品質調整官  
 河田 博之氏

講話 「改正労働安全衛生規則（足場等関係）について」



厚生労働省 労働基準局  
 安全衛生部 安全課  
 建設安全対策室  
 技術審査官  
 船井 雄一郎氏

発表 「中高層ビルを下から解体「鹿島カット  
 アンドダウン工法」」



鹿島建設(株) 東京建築支店  
 (仮称)元赤坂Kプロジェクト  
 工事共同企業体 所長  
 川上 敏男氏

発表 「刑務所建設の安全管理」  
 —短工期・大規模刑務所建設の安全対策—



(株)大林組 広島支店  
 島根あさひ工事事務所  
 総合所長  
 尾野本 悟氏

発表 「大断面シールド現場における安全衛生管理活動」ーリスクアセスメント・KY活動・安全の視える化の実践ー



清水建設(株) 土木東京支店  
首都高大桥建設所 工事長  
谷口 禎弘氏

講話 「社会資本整備で日本を元気に」



エコノミスト  
紺谷 典子氏

## 安全衛生教育部会 東京国際フォーラム(ホールB7②) 参加者 約620名

講話 「改正労働安全衛生規則(足場等関係)について」



厚生労働省 労働基準局  
安全衛生部 安全課  
建設安全対策室  
主任技術審査官  
吉田 哲氏

発表 「短工期での「研究施設建設」におけるリスクアセスメントと環境保全活動の実施」



(株)竹中工務店  
名古屋支店  
作業所長 井川 悟氏

発表 「熱中症対策について」



村本建設(株)  
安全環境グループ  
マネージャー  
竹下 直史氏

発表 「リスクアセスメントの手引き(CD)を活用した当社の安全衛生管理」



相鉄建設(株)  
業務推進部(環境安全担当)  
課長代理 三橋 智氏

発表 「「もう誰も悲しませない!」を合言葉に安全意識向上活動の取り組みについて」



熊谷組 安全衛生協力会  
首都圏文部 青年部会長  
沼田工業(株) 代表取締役  
社長 沼田 順一郎氏

発表 「分かりやすさでその気にさせる安全活動」



前田建設工業(株) 東京支店  
前田・田中建設共同企業体  
八王子産業高校作業所  
所長 福田 健人氏

発表 「安全衛生管理の基礎知識と危険予知活動の活性化」



鉄建建設(株)  
安全環境本部  
安全品質環境部 課長  
細谷 浩昭氏

発表 「安衛則の改正と施工管理者等の教育について!」



建設業労働災害防止協会  
教育部 次長  
佐々木 隆氏

## 専門工事部会 東京国際フォーラム(ホールB5) 参加者 約150名

発表 「玉掛業務従事者再教育を事業者自ら実施して」



熊谷組安全衛生協力会  
首都圏支部 副支部長  
新妻鋼業(株) 代表取締役  
社長 新妻 尚祐氏

講話 「改正労働安全衛生規則(足場等関係)について」



厚生労働省 労働基準局  
安全衛生部 安全課  
建設安全対策室長  
田中 敏章氏

発表 「『Hi-jet ARC工法』による、煙突石綿断熱材等の  
ウォーターハイジェット除去処理技術」



(株)藤林商会  
代表取締役  
藤林 秀樹氏

発表 「夢のボールパーク誕生に向けて」  
—広島市新球場(仮称)新築工事—



五洋建設(株) 中国支店  
工事所長  
山口 隆之氏

発表 「リスクアセスメントで災害ゼロ」  
—セーフティチームTAKEDAの取り組み—



武田建設(株)  
代表取締役社長  
武田 美治氏

発表 「職長会のコミュニケーション活動」



大成建設(株) 東京支店  
金町六丁目市街地  
再開発作業所 作業所長  
鈴木 朋久氏

発表 「“気づく”を重視する『先取りハット活動』」  
—作業者の自発的行動を引き出す—



(株)日本ピーエス  
安全管理部 安全課  
課長代理  
山崎 寛明氏

発表 「ハート&ドリーム」  
—一心と夢をテーマに行動災害の撲滅をねらった  
日常の取り組み—



鹿島建設(株) 関西支店  
マルイト難波ビル工事  
事務所 所長  
松岡 英治氏

## 住宅部会 有楽町朝日ホール 参加者 約500名



講話 「改正労働安全衛生規則(足場等関係)について」

厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課  
建設安全対策室 技術審査官

船井 雄一郎氏

シンポジウム

「住宅施工建築現場での仮設設備について」  
—安全な足場の維持管理について—

司 会：積水ハウス(株) 施工安全労務部  
部長 村田 茂氏  
パネラー：ミサワホーム(株) 生産・建設本部  
建設推進部 建設企画グループ  
宗像 祐司氏  
住友林業(株) 住宅事業本部  
安全環境室 安全グループ  
マネージャー 清水 美義氏  
三井ホーム(株) 統括技術本部  
工事推進グループ 浜野 実氏  
東急建設(株) 安全環境品質部長  
諏訪 嘉彦氏  
積和建設東京(株)  
武蔵野事業所 統括工事部  
課長 岸本 光男氏  
建設業労働災害防止協会  
主任安全管理士 坂本 栄生氏



左から 岸本、坂本、村田の各氏



左から 宗像、清水、浜野、諏訪の各氏

発表 「足場先行工法から手すり先行工法への取り組み」  
—新しい足場文化の創造  
を目指して—



(株)ダイサン 取締役営業  
本部長 藤田 武敏氏

発表 「木造低層住宅工事における安全衛生活動」  
—手すり先行工法への取り組み—



東急建設(株)  
住宅事業部 建築部  
工務グループ 工務主任  
水落 治氏  
住宅事業部 建築部  
作業所 工事主任  
松本 政明氏

左から水落氏、松本氏

発表 「注意喚起を直接 毎作業 作業員へ」



全国低層住宅労務安全  
協議会 教材開発部会  
部会長  
古河林業(株) 東京支店  
生産管理部 部長  
加賀谷 敏信氏

来年度の

## 第47回全国大会の日程が決まる!!

来年度の「第47回全国建設業労働災害防止大会」の開催日程等が、次のとおり決まりました。

開催日：平成22年10月21日(木)・22日(金)

開催地：宮城県仙台市「仙台市体育館他4会場」

詳細については、この「建設の安全」や「当協会ホームページ(<http://www.kensaibou.or.jp/>)」等で順次ご紹介していきます。

最新の安全衛生管理等に関する情報やノウハウの提供によって共有化を推進し、全国的な安全衛生水準の一層の向上を図るべく、より内容を充実させてまいりますので、ご支援、ご協力をお願いします。



## 舩添 要一 厚生労働大臣

(平野 良雄 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部長代読)



祝辞を述べられる平野安全衛生部長

本日、ここに創立四十五周年記念全国建設業労働災害防止大会が開催されるに当たり、一言お祝いの御挨拶を申し上げます。

本大会が全国から多数の方々のお参集のもと、このように盛大に開催されますことは、関係者の皆様の労働災害防止に対する熱意の表れであり、誠に心強く感じる次第です。

また、皆様には、日頃から厚生労働行政の推進に多大な御理解と御協力を賜っておりますことに厚くお礼申し上げますとともに、労働災害防止に向けて日々真摯にお取り組みいただいていることに対し、深く敬意を表するところです。

本大会では、永年にわたり労働災害防止活動に積極的に取り組まれ、多大な御功績をあげられた方々が表彰を受けられることとなっております。受彰される方々の御功績に敬意を表しますとともに、心よりお祝いを申し上げます。

さて、建設業における労働災害の発生状況は、関係者の御尽力により、長期的には減少傾向にあります。

しかしながら、昨年においても、なお、全産業で年間千二百六十八人の尊い生命が失われており、その三分の一が建設業において発生している状況にあります。また、基礎工事用の建設機械の倒壊災害、クライミングクレーンの落下災害といった社会的に大きな関心を集める災害も発生しています。

このような中で、これまで現場の労働安全衛生を支えてきた団塊世代の大量退職、経験年数の短い労働者の増加等により安全衛生のノウハウがうまく引き継がれていないことも懸念されます。

景気は厳しい状況が続いていますが、企業における労働災害防止対策に係る活動が停滞することなく、次世代を支える若者等へ現場力の円滑な継承がなされ、向上していくことが、事業場における安全衛生の確保の点からも、非常に重要な課題であると認識しております。

厚生労働省としては、平成二十年度を初年度とする第十一次労働災害防止計画を策定し、死亡災害等の減少や定期健康診断における有所見率の増加傾向に歯止めをかけることを目標として各種の取組を推進しております。

特に建設業については、労働災害防止のための重点業種として、元方事業者による統括管理の徹底、専門工事業者の安全衛生管理能力の向上、発注者による安全衛生への配慮の促進という建設業の特性に着目した対策に加え、死亡災害の四割以上を占める墜落・転落災害防止対策の強化等を対策の大きな柱として、労働災害防止の徹底を図っていくこととしております。

皆様におかれましても、本大会を通じて、職場における安全衛生管理の重要性を再認識していただくとともに、優れた取組を大いに学んでいただき、各事業場において、労働災害防止対策の一層の取組をお願いする次第です。

最後になりましたが、社会資本整備の担い手であり、我が国の基幹産業である建設業の更なる御発展と、御参集の皆様への御健勝、御活躍を祈念いたしますとともに、本大会が実りあるものとなりますことを御期待申し上げます。私のお祝いの言葉といたします。

## 金子 一義 国土交通大臣

(小澤 敬市 国土交通省 建設流通政策審議官代読)



祝辞を述べられる小澤建設流通政策審議官

創立45周年記念全国建設業労働災害防止大会の開催を心よりお慶び申し上げます。

貴協会は、建設分野における法定の労働災害防止団体として昭和39年に設立されて以来、建設労働者の安全、衛生に係る措置に対する指導、支援などを通じて建設業界の自主的な安全管理の向上に大きく寄与されており、その永年のご尽力に対し、敬意を表する次第であります。また、長年にわたり労働災害防止活動に積極的に取り組まれたご功績により、本日表彰を受けられます皆様方に、心よりお祝い申し上げます。

建設業は、技術者・技能者がその能力をいかに発揮するかによって生産性や工事の品質が左右される、「人」が支える産業であります。このため、建設業を取り巻く環境が厳しい中であっても、建設工事現場で働く人々が安全に働くため、労働災害の減少に向けた積極的な取組を展開していくことが特に重要であります。

貴協会におかれましては、「工事計画作成段階から現場における作業段階に至るまでの一貫したリスクアセスメントの実施」や「建設業労働安全衛生マネジメントシステムの確立及びその機能的な運用」の全国的な普及定着に重点的に取り組んでおられます。こうした取組の結果、建設業における平成20年の労働災害による死亡者数は、過去最少の430人を記録しました。これは貴協会を始めとする関係各位の長期にわたる不断のご努力の賜物であり、深く感謝申し上げます。さらに、本年度は、労働安全衛生規則や石綿障害予防規則の改正を踏まえた、研修内容の充実と推進を図ることとして何となくとっており、こうした取組が、建設業における労働災害の一層の減少につながることを期待しております。

国土交通省としましては、特に事故が多発している墜落事故、重機事故、交通事故等について、平成12年度から年度毎に「建設工事事故防止のための重点対策」を打ち出しており、平成21年度は、国土交通省直轄土木工事を対象に、交通事故防止重点対策やのり面からの墜落事故防止重点対策などを実施することとしております。

先ほど申し上げましたとおり、建設業における平成20年の労働災害による死亡者数は過去最少となりましたが、全産業に占める建設業の死亡者数の割合は3分の1となっており、依然として高い割合となっております。そのため、引き続き関係者が密接に連携を図りながら、労働災害の減少に向けた積極的な取組を展開していくことが特に重要であり、これまで先導的な役割を果たしてこられた貴協会の重要性は、今後ますます高まるものと確信いたしております。

終わりに、貴協会の一層のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

# 創立45周年記念全国建設業労働災害防止大会 建災防 銭高会長挨拶

本日ここに、全国建設業労働災害防止大会を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。建災防は、昭和39年に創立され、今年で45年となります。今年の全国大会は、建災防創立45周年記念大会として開催した次第であります。本日は、全国各地から記念大会に多くの会員の皆様方にご参加をいただき、誠にありがとうございます。



挨拶される銭高会長

また、公務ご多忙中にもかかわらず、厚生労働省、国土交通省の行政ご当局から、多くの方々のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

建災防創立以来、建設業における労働災害は、長期的には着実な減少をみており、死亡災害にあつては、昨年は430人でありました。昭和39年の2,405人から45年間で82%の減少となっています。

これは、建災防の創立の意義が着実に実践されてきた結果であると思います。

近年の建設労働災害の減少は、工事量の減少に連動しているとの見方をされるありますが、年間の建設投資額と死亡災害の減少率を比較いたしますと、死亡災害の減少率が17ポイントも上回っており、建設労働災害の減少は、安全衛生水準向上の成果であると考えられます。

このように建設産業の安全衛生水準が大きく向上した背景としては、関係法令の整備、安全衛生技術の進歩等さまざまな要因が考えられますが、最大の要因は、ご参集の皆様をはじめ、会員各位の労働災害防止に寄せる熱意と地道な安全衛生活動の積み重ねによるものであります。

皆様の長年にわたる建設労働災害防止活動への熱心な取り組みに対し、改めて敬意を表しますとともに、心より御礼申し上げます。次第であります。

建災防としては、創立45周年記念大会の開催を契機に、建設産業の安全衛生水準のさらなる向上を図り、各種事業活動をさらに活発に推進することが重要であります。

建設産業では厳しい経営環境が続いていますが、今後も基幹産業として健全に発展するためには、関係者が一丸となって危険ゼロの職場づくりに邁進することが重要であります。

しかしながら、近年、労働災害の減少に伴い、安全衛生意識の低下が懸念されており、また、災害事例研究等に必要情報の入手が困難な状況となっております。さらに、ベテランの安全衛生担当者が退職年齢を迎えており、安全衛生管理ノウハウの継承が重要課題となっております。

本大会においては、これらの課題を踏まえ、「みんなで取り組む先取り安全 めざすは職場の危険ゼロ」のスローガンの下、二日間にわたる総合部会及び専門部会、並びに保護具等の展示会を通じて、安全衛生意識の高揚と安全衛生管理に関する情報やノウハウの共有化を図ることとしております。

本日の総合部会においては、長年にわたり安全衛生意識の高揚並びに建設業の安全衛生水準の向上に多大なご貢献をいただいた方々に対する表彰及び顕彰を行なうこととしております。

また、特別講演については、建築家の安藤忠雄さんに、「建設業の責任」というテーマでご講演をいただくことになっております。

明日、二日目の専門部会では、店社や作業所で効果を上げている安全衛生管理活動に関する発表、安全衛生分野の有識者によるシンポジウム、行政のご担当官によるご講話等を行っていただく予定になっております。

会員各位におかれましては、本大会で得た情報やノウハウを大いに活用し、労働災害防止対策の一層の向上と徹底を図られますようお願いいたします。

また、ご来賓の皆様におかれましては、今後とも建災防に対するご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本大会の開催に当たり、ご支援、ご協力を賜りました関係各行政機関、並びに大会の準備・運営にご尽力いただいた東京支部の大島支部長様をはじめ、関係各位に対し、衷心より感謝申し上げ、開会の挨拶といたします。

## 創立45周年記念全国建設業労働災害防止大会 大島 義和 大会実行委員長・建災防東京支部長 歓迎のことば

創立45周年記念全国建設業労働災害防止大会がここ東京でかくも盛大に開催されましたことに厚く御礼申し上げます。

本日の大会を開催するに当たり、多数の関係者の方々に多大なご支援・ご協力をいただき、重ねて厚く御礼申し上げます。

さて、建設業における労働災害は、長期的に減少傾向で推移しており、特に昨年の死亡者数は、過去最少を記録しました。また、全産業に占める建設業の労働災害の割合も低下傾向にあります。

これもひとえに関係各位の日頃の安全衛生活動の賜と存じます。

今後とも着実な安全衛生活動を継続していくためには、労働災害に対する創意工夫を図り、効果的な安全衛生活動を行う必要があります。

このような意味で、本全国大会は、建設業の安全衛生関係者が一同に集い、今日的な安全衛生管理ノウハウを共有し、安全衛生意識の一層の高揚を図る大切な大会であります。

本大会が、ご参加いただいた皆様にとって実り多いものとなり、そして、建設業の安全衛生の向上に大きく貢献するものとなるようご期待申し上げます。

さて、東京は日本の中心であり文化の発信基地であります。また、いろいろなものが揃うところでもあります。ご参集の皆様におかれましては、この機会に東京を満喫していただければと願っております。

最後に、本全国大会の開催を契機として、建設業における安全衛生水準が一層向上したものとなるようご祈念申し上げ「歓迎のことば」といたします。



歓迎のことばを述べられる  
大島大会実行委員長  
(建災防東京支部長)

# 第47回 全国建設業労働災害防止大会 研究論文を募集!!

建設業労働災害防止協会

当協会では、平成22年10月21日(木)・22日(金)の両日、宮城県仙台市(仙台市体育館他)で開催する「第47回全国建設業労働災害防止大会」(以下「大会」という。)に向けて、研究論文(以下「論文」という。)を募集しています。

採用となった論文については、「第47回全国建設業労働災害防止大会研究論文集(CD-ROM)」に収録し、大会当日、参加者へ提供します。また、各専門部会委員会で選ばれたものについては、大会2日目の専門部会でご自身による壇上発表の機会を設けています。

応募に必要な「**第47回全国建設業労働災害防止大会研究論文送付書**」(15ページ参照)は、当協会ホームページ(<http://www.kensaibou.or.jp/>)でダウンロードできますのでご利用ください。

会員の皆様のご応募をお待ちしております。



## 1. 目的

会員企業が、日頃から努力と工夫を重ね、成果を上げてきた安全衛生管理活動を大会で発表し、その情報やノウハウ等を他の企業へ提供することによって共有化を図り、全国的な安全衛生水準の向上につなげる。

## 2. 応募要領

### (1) 応募資格

原則として会員企業とする。

ただし、建設業の安全衛生管理活動は、元請業者と専門工事業者が協力して実施していることから、会員企業の安全衛生協力会等も対象とする。

### (2) 論文の主なテーマ

次の①～⑥の応募区分により、日常の安全衛生管理活動の創意・工夫により、実際に成果を上げたもの等とする。

#### ① リスクアセスメントの実施に関する活動

事業者の努力義務である「リスクアセスメント」について、リスクの特定方法や評価方法(危険度のランク付け方法)等、リスクアセスメントの実施に関するもの等。

#### ② 労働安全衛生マネジメントシステムに関する活動

確立したシステムの内容を含め、「リスク評

価」「システム監査」等の効果的、組織的な安全衛生管理活動等。

#### ③ 安全衛生教育等、成果を上げている日常の安全衛生管理活動

- (ア) 安全衛生教育(職長教育、能力向上教育、新規入場・送り出し教育、特別教育、建設工事従事者教育、ヒューマンエラー教育等)
- (イ) 安全施工サイクル、KY活動、ヒヤリハット活動、不安全行動防止活動等
- (ウ) 安全パトロール、安全衛生点検等の活動
- (エ) 安全管理体制の確立と運用等
- (オ) 作業方法・手順書の改善等

#### ④ 機械、設備等の改善を含めた労働災害防止労働災害防止のための設備的な考案・発明や安全衛生管理活動等。

- (ア) 工法、設備、機械・機材等の考案・発明
- (イ) 「解体作業における石綿対策」、「ヒューマンエラー対策」、「快適職場づくり」等の創意・工夫

#### ⑤ 専門工事業者の安全衛生管理活動

労働安全衛生マネジメントシステムの導入実施やリスクアセスメントの実施等の専門工事業者の自主・自律的な安全衛生管理活動等。

#### ⑥ 低層住宅建築工事業者の安全衛生管理活動

労働安全衛生規則(足場等関係)の改正や

足場先行工法の導入等により墜落・転落災害の防止対策の強化が図られていることなどを踏まえ、改正労働安全衛生規則への対応、墜落・転落災害防止に係わる安全衛生管理活動等。

### 3. 採用及び公表等

応募論文は、各専門部会委員会及び安全管理士の審査を経て、大会の壇上発表、論文発表(CD-ROM)の採否を決定する。

- (1) 各専門部会委員会で選出された論文は、大会2日目の専門部会において壇上発表する。
- (2) 採用されたすべての論文は「第47回全国建設業労働災害防止大会研究論文集」としてCD-ROMに収録し、大会当日、参加者へ提供する。
- (3) 採用者には、大会の招待券を送付する。

### 4. 応募方法等

#### (1) 応募先

- ① 建災防本部  
〒108-0014  
東京都港区芝5-35-1 産業安全会館7階  
建設業労働災害防止協会 広報課 宛  
Tel 03-3453-8201 Fax 03-3456-2458
- ② 所属の建災防都道府県支部  
住所等：当協会ホームページ等参照

#### (2) 応募締切日

- ① 建災防本部宛  
平成22年1月28日(木)必着
- ② 建災防都道府県支部 宛  
平成22年1月21日(木)必着



発表者の表彰

### (3) 応募形式

- ① 原稿は原則としてPC等電子データ原稿とし、6,000字以内とする。
- ② CD-R等に収録し、プリントアウトした原稿を必ず添付する。
- ③ 原稿すべてを「パワーポイント」の「スライド画像」とすることは不可とする。
- ④ 原稿サイズはA4とし、文字は11ポイント、1行40文字で1頁40行とする。
- ⑤ 写真は1枚につき300字、図面は1枚につき600字と換算する。
- ⑥ 原稿には必ず頁数を入れる。
- ⑦ 写真・図面・添付資料には番号と説明書き(キャプション)を入れ、掲載場所等を明確にする。
- ⑧ 原稿作成では文体(ですます調、である調)と表記(など、また、ともに)等を統一する。
- ⑨ 提出原稿には次頁の「第47回全国建設業労働災害防止大会研究論文送付書」を必ず添付する。

### 5. その他

- (1) 特許、実用新案等に関連のあるものはその旨を必ず明記する。
- (2) 論文執筆、応募等に係る全ての経費は執筆者の負担とする。
- (3) 大会の壇上発表に係る旅費等については各自の負担とする。
- (4) 執筆にあたり、論文に掲載する写真等について、個人情報等に十分注意する。
- (5) 採用された論文は編集等の都合上、許可なく変更することがある。
- (6) 論文は返却しない。
- (7) 応募された論文を公表することについて、あらかじめ同意しているものとする。
- (8) 論文に係る著作権は当協会に帰属する。
- (9) 前各項に掲げる内容から発生する一切の損害について、当協会は執筆者に対して一切責任を負わない。

#### ■お問合せ先

建設業労働災害防止協会 業務部 広報課  
〒108-0014 東京都港区芝5-35-1  
産業安全会館7階  
TEL：03-3453-8201 FAX：03-3456-2458



# 「防振手袋」の選択・使用方法及び保守管理について

社団法人日本保安用品協会所属  
株式会社シモン 常勤監査役

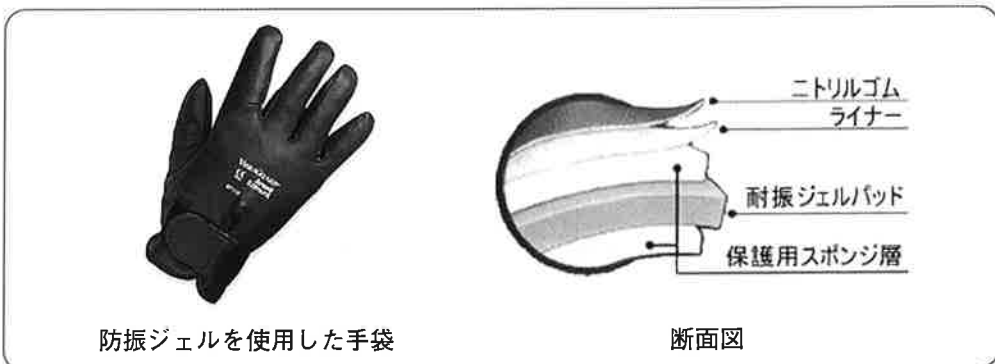
桑貝 毅

## 1. 防振手袋 (JIS T 8114 : 2007) は振動障害の防止目的で作られています。

建設業ではさく岩機、ピックハンマー、コンクリートバイブレーター、コンクリートブレイカー等の作業から手や指を振動障害から守る目的で使用されています。防振手袋を使用していれば大丈夫と考えがちですが、防振手袋を使用しても振動を軽減しているだけです。岩石のはつり、かしめ、切断、鋸打ち等の一日の振動作業は、2時間以内と定められています。振動の作業時間は出来る限り短くしましょう。作業内容によっては連続しての振動作業を中止して休憩時間をとり、手や腕、肩や腰等の運動を心がけましょう。

厚生労働省から「業種別・年度別振動障害の労災新規認定者数」平成18年度では建設業が、もっとも多い178名の方が労災認定されています。短期間の作業では振動障害は治りやすいが、長年の蓄積で振動障害は発生されるといわれています。上記の作業等に長年従事されている方は、振動障害予備軍の可能性があるので十分注意が必要です。

防振手袋の構造は、手袋を2重に作り間に空気層(スポンジやゴム管を入れ)振動を軽減させているものや、振動吸収剤を間に入れたもの、振動吸収剤を表面に張り付けたもの等があります。





防振材を張り付けた手袋

防振手袋を選ぶ時は、指先まで防振材が入っているものを選んで下さい。手袋本体にJIS表示やEN (Euro Norm) マークのついた商品をお勧めいたします。なお、綿手袋等を2重に使用しても防振効果はほとんどないことが、実証されています。

使用上の注意としては、振動作業に従事する作業には必ず防振手袋と、騒音が90dB以上の場合は耳栓も使用して下さい。始まる前や休息时间、作業終了後に必ず手、腕、肩、腰の運動をし、指の先まで血行を良くして下さい。振動の作業によっては作業時間の制限がありますので、事前に調査し、作業時間を守って下さい。また、工具等が

新品時とくらべ、音や振動が大きくなっていないか確認し、常に振動工具等の点検・修理を実施して下さい。

振動工具の使用方法としてはハンドル等以外の部分は持たない。また、過度に強く握らない。掘さく等を行う時は、軽くひじを曲げて出来るだけ力を抜いて工具を保持するようにし、強く握るなど、手で押しつける事がないように注意して下さい。

保守管理は、防振手袋の振動吸収剤が片寄っていたり、飛び出していないか休憩時等に確認して下さい。このような時のため、あらかじめ予備の防振手袋の用意も必要です。

# ←←これ、安心のマークです!

**推奨品**

安全性を考えて作業スニーカーをお買い求めなら、商品にピンク色の推奨品マークが付いているか確かめください。一定の安全基準をクリアした商品に付与されるこのマークは、協会が認めた証し、安全の証しなのです。数々の試験をクリアした安全・安心をぜひお求めください。

- 疲れにくい軽量設計
- すっきりしたスニーカーデザイン
- つま先を保護する先芯
- 一定基準以上の耐久性をもつ甲被と表底材
- むれ防止に配慮した構造
- 反射材
- かかとの衝撃を軽減させる構造
- 快適な履き心地
- 優れたクッション性能

**社団法人 日本保安用品協会 / 日本プロテクティブスニーカー協会**  
 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-15 和光湯島ビル5階 TEL:03(5804)3125 FAX:03(5804)3126

# 防音保護具の選択方法及び効果的な使用方法について

社団法人日本保安用品協会所属  
興研株式会社 営業本部 安全衛生ディビジョン マネージャー 堀口 展也

## 1. 防音保護具の選択方法

### (1) 耳栓について

耳栓を選ぶ時は、使用者の耳に良くなじみ、使用中に著しい不快感（圧迫感、ムレ、痛み等の苦痛）がなく、使用中に容易に脱落しないものを選びます。

また、短時間の装着ではなく10分以上装着して、苦痛等がないか確認することが重要です。

外耳道に合わない耳栓は効果が小さいので、サイズの違う耳栓や、多くの種類の耳栓を装着して選んでください（写真-1）。

耳栓が外耳道にフィットしているかを、一定の周波数の音により判定できる耳栓チェッカー（写真-2）が市販されているので、それを用いてフィットネスを確認する方法があります。

騒音レベルが比較的低くて、特に会話や危険情報を聞く必要性がある場合は、会話音域を通しやすい2種の耳栓を使用することができます。

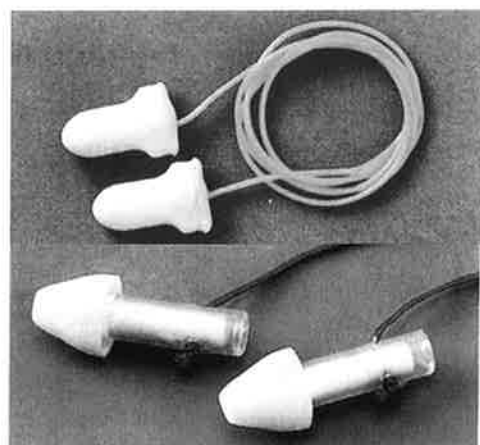


写真-1



写真-2 耳栓チェッカー

### (2) イヤーマフ（耳覆）について

イヤーマフは耳栓と比べて、2,000Hzから4,000Hzの高周波音での遮音性能が比較的高いです。そのため、イヤーマフは高周波音が特に大きい騒音環境で使用が適しています。また、大きな騒音現場では耳栓とイヤーマフの併用が有効です。

外耳道の炎症がある場合は、耳栓ではなく、イヤーマフを使用してください。



写真-3

## 2. 使用方法

### (1) 耳栓の正しい装着方法

耳栓を入れる耳の反対側の手を頭の後方から回し、耳殻を後上方にひっぱり上げて耳の穴をまっすぐにした状態で、耳栓を適正な位置まで挿入します。

保護帽やマスクと併用する時は、耳栓を最初に装着します。



### (2) イヤーマフの正しい装着方法

頭頂部のバンドをかけ、カップが耳全体を覆う正しい位置にくるようにヘッドバンドの長さを調節します。

## 3. 点検について

### (1) 耳栓

キズ、汚れ、硬化、変形がないか使用前にチェックします。

### (2) イヤーマフ

カップ・クッション部に破損、変形、硬化がないか、ヘッドバンド及びスプリング（サスペンション）等が弱くなっていないか使用前にチェックします。

## 4. 保守管理について

### (1) 耳栓

① 使用後は適度な濃度の中性洗剤等でキズをつけないように洗ってください。

汚れや油等で変形、硬化等劣化したものは十分な遮音性能が得られません。

また、汚れた耳栓を使用すると、炎症などを起こすおそれがあります。

② 清潔にしてケースに入れ保管をしてください。

### (2) イヤーマフ

① 使用後はカップを適度な濃度の中性洗剤等でキズをつけないように洗う。油等でクッション部が変形したものは十分な遮音性能が得られません。

② 清潔にしてカップが変形しないように保ち、保管箱に入れ保管してください。

## 5. 耐用基準（交換の目安）について

### (1) 耳栓

キズ、変形、硬化があるものは性能が劣化しているので新品と交換してください。

### (2) イヤーマフ

カップ・クッション部に破損・変形・硬化があるものは性能が劣化しているため新品と交換してください。ヘッドバンド及びスプリング（サスペンション）等が弱くなった時は新品と交換が必要です。

## 6. まとめ

建設業では作業環境改善について工学的な対策が難しいことが多く、現状では、防音保護具に頼らざるを得ないのが実情です。

しかし、防音保護具の間違った選択と保守管理によっては、対策をしているつもりでも、将来難聴になってしまうこともあります。防音保護具の使用者と管理者のそれぞれが、防音保護具の効果・使用方法等を理解し、適切に運用することが重要です。

# 過去から学び、現在及び未来に繋げる安全管理

前田建設工業株式会社 執行役員 経営管理本部 安全部長 加藤 正勝

## 1. はじめに

当社で「安全」を語るとき、過去に起きた次の2件の重大災害を抜きでは語れない。

- (1) 昭和53年6月 農業用水路トンネルで発生したメタンガス爆発による重大災害
- (2) 昭和54年3月 新幹線トンネル新設現場で起きた坑内火災による重大災害

上記のように1年以内に連続して2件の重大災害を発生させ、会社存亡の危機に直面した。この2件の事故を契機として、当社では「安全管理」を根本から見直し、それまでの災害を分析し、昭和54年6月に以下のように「安全十戒」を定め、朝礼や作業打合せ時、週間工程会議、月毎の災害防止協議会等、あらゆる機会を活用し、作業毎のリスク評価を行い、過去に起きた同種災害の未然防止に役立てている。

### 安全十戒

- 1) 火を使う時の対策はよいか
- 2) 高所作業中や開口部からの墜落防止はよいか
- 3) クレーン等の転倒防止、玉掛けはよいか
- 4) 鉄骨、足場などの転倒のおそれはないか
- 5) 重機、車両に人が接触するおそれはないか
- 6) 上部作業の下方立入禁止はよいか
- 7) 落石、地山崩壊、出水に対して油断はないか
- 8) ガス、酸欠の発生を予見したか
- 9) 第三者、埋設物への配慮はよいか
- 10) 臨時、突発作業の対策はよいか

現在、技術や工法の進歩により、作業所で想定される全てのリスクが、この「安全十戒」で網羅されているとは限らないので、この十戒を基本に現場毎に「安全十二戒」や「安全十五戒」を作成しても良いように柔軟に運営している。

また、品質管理の手法を用いて安全管理の向上を図ることを目標に昭和58年にTQC（トータルクオリティーコントロール／全社的品質管理）を導入し、平成元年に「デミング賞」を取得した。

さらに、平成7年にはわが国の建設会社で認証2例目となる「日本品質管理賞」を受賞し、環境分野でも平成10年にISO14001の認証を取得している。

平成13年からは、それまでの安全衛生管理のしくみを見直し、会社経営や施工管理等に係わる活動と一体化するため、TQM（トータルクオリティーマネジメント／総合的品質管理）で培われたノウハウを活用し再構築し、新たに「労働安全衛生マネジメントシステム」（MAEDA OHSMS）として運用を開始している。

平成21年3月に建設業労働災害防止協会より当社の関西支店が「COHSMS（コスモス）」の認証を取得した。（写真－1）



写真－1 平成21年3月26日COHSMS認定証交付式  
左から前田建設工業(株) 前田会長・同社 小倉関西支店長、  
建災防 伊藤専務理事

当社の安全管理の大きな特徴は、上述した2件の重大災害から多くを学び、再発防止に役立ててきた点にある。当社のMAEDA OHSMSの安全方針基本理念では以下のように記述している。



COHSMS（コスモス）認定証

「安全は、会社の良心である」を安全行動の基本理念とする。生命・健康を守るという精神は、

一人ひとりの努力によって積み重ねるもので、与えられるものではない。良心にしたがい、社会の倫理である災害防止活動を、全社一体となって遂行し、安全な職場と快適な作業環境を創出する。

また、新幹線トンネル新設工事での重大災害について、ビデオ・DVDによる社内教育資料を作成し、若手社員に対しても決してこの事故を風化させることのないように繰り返し教育をしている。

## 2. 前田救護活動隊 (MRT:Maeda Rescue Team)について

当社では昭和53年6月に発生したメタンガス爆発事故を受け、当時の鉱山保安院（現在の原子力安全・保安院）の救護技術研修を受講し、三十数名の救護技術者を養成した。それにより翌年の昭和54年3月に発生した新幹線トンネル新設工事での坑内火災事故についても、当社の救護隊員十数名が直ちに現場に駆けつけ、警察・消防等の現地対策本部の指揮の下に事故後、最初に入坑し捜索活動を行った。しかし、2つの大災害のあと、二十数年が経過し当時養成した三十数名の多くが定年退職し、現役で数名が残るのみで、全員が五十代後半という状態になった。

そこで、平成19年10月、新たに「前田救護活動隊（通称：MRT）」を発足させた。

MRTは隊員15名（現在は16名）で組織され、北海道から九州までの全国の現場から選抜した。隊員の資格要件としては、建災防主催の「ずい道等救護技術管理者研修」受講者であり、且つ身体能力及び知識や経験に優れた者から任命し、一般隊員は50歳、隊長は55歳で除隊となる。また、隊員は会社が指定する半年毎の定期訓練を受講しなければならない。現在まで、以下の4回の訓練を実施した。

- ・初任時訓練（平成20年1月16日～18日）  
建災防 佐倉教育センター
- ・第2回訓練（平成20年7月26日～28日）  
釧路コールマイン(株)の訓練施設
- ・第3回訓練（平成21年1月24日～25日）  
当社研修施設及び現場
- ・第4回訓練（平成21年7月4日～6日）  
釧路コールマイン(株)の訓練施設

また、第3回訓練時に、隊員全員でMRT隊員心得を決定した。（図-2）

このMRTは社長直属の組織であり、当社の災害だけではなく、要請があれば社会貢献の一環として社外でも出動できる体制となっている。また、各隊員は日本赤十字救急法救急員の資格も有しており、隊員の所属する現場には「AED」（自動体外式除細動器）を常備しているため、地域に対する社会貢献活動の役割も担っている。

過去4回の訓練の結果、隊員の意識は格段に向上しており、隊員心得の第二番目にあるように、「全国の現場に配置されている自分たちが、先頭に立って災害の未然防止に努める」という強い信念で毎日、全国の現場で隊員各自の仕事をしており、このことが当社における重大災害防止に大きな役割を果たしている。



図-1 MRT関連新聞記事

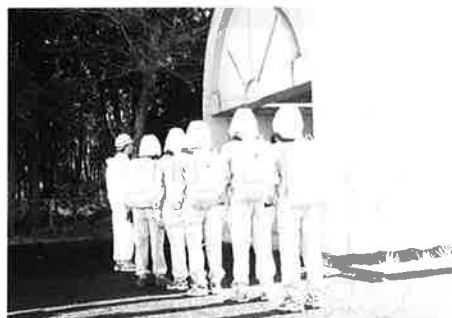


写真-2 初任時訓練状況（建災防）

### MRT隊員心得

- 一、救護技術と知識の向上を図る
- 一、災害の未然防止に努める
- 一、一致団結して事に当たる
- 一、二次災害の防止に努める
- 一、正確に判断し迅速に行動する
- 一、誠実な心で全力を尽くす

図-2 MRT隊員心得



写真一 3 第 2 回訓練状況



写真一 4  
第 3 回訓練時の  
社長訓辞



写真一 5  
第 3 回坑内救護  
訓練状況



写真一 6 水口ダム

<ul style="list-style-type: none"> <li>・向家ダム (重力式ダム)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溪洛度ダム (世界最大級のアーチ式ダム)</li> </ul>
期間：平成18年11月～現在迄継続中 概要：提体積 1,220万m <sup>3</sup> 高さ 161m 提長 909m 総貯水量 52億m <sup>3</sup> 発電量 600万KW	期間：平成17年3月～平成20年2月 概要：提体積 約600万m <sup>3</sup> 高さ 278m 提長 698m 総貯水量 127億m <sup>3</sup> 発電量 1,260万KW



写真一 7  
現場指導状況



写真一 8  
施工会社幹部への  
安全教育状況

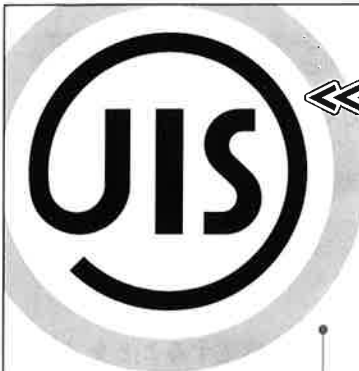
### 3. 中国における安全指導について

当社では、昭和62年から平成6年迄の間、中国福建省にて重力式の「水口ダム」を施工した。この工事において、発注者から当社の安全管理について高い評価を受け、それにより世界的に有名な三峡ダムの築造工事においても、発注者の要請で安全管理について当社より専門家を派遣し指導を行った。その実績から、現在、中国で施工中の大規模ダムについても当社職員が現地にて安全指導を行っている。

また、現在迄数回、中国から安全管理の研修生を数十名受け入れ、日本の現場で安全管理研修を2週間程度の短期間ではあるが行っている。労働災害の防止及び人命尊重は世界共通のテーマであり、安全管理研修を通して日中友好の一翼を担っている。

### 4. おわりに

以上、当社における安全管理で特徴的なものについて記述した。米国発の金融問題が世界に飛び火し、わが国もその例外ではなく、建設業も非常に厳しい状況に置かれている。このような状況下であるからこそ、「安全第一」はますます大切になっている。我々の現場で起きる災害は、墜落・転落を始めとしてその殆どが過去に起きた災害の繰り返しであり、予見が可能な災害である。その一方で、技術革新のスピードはコストの削減要求もあり、今まで以上に加速すると思われる、今まで無かったような新たな災害が起こる可能性もある。リスクアセスメントを各現場で行い、過去の災害から学び、現在及び将来に繋げていくような安全衛生活動を、協力会社と一体となって推進していく所存である。



# これ、安全のマークです!

■日本工業規格(JIS)による安全靴には、2つの規格があります。

### JIS T 8101

つま先を先芯によって防護し、滑り止めを備える靴

### JIS T 8103

爆発・火災・製品の汚れに影響する人体への静電気帯電を防ぐ靴

### ■JIS認定の安全靴は

#### 作業区分による種類

先芯の耐久性により「重作業用」「普通作業用」「軽作業用」の3つに区分されます。

#### 甲被による種類

天然の牛革をなめした「革製」と漏れ防止性能がある「総ゴム製」があります。

#### 付加的性能

「耐踏抜き性能」「かかと部衝撃吸収性」「耐滑性」「足甲プロテクタの耐衝撃性」など特に優れた性能をもつものがあります。

#### 表底の種類

滑り止め効果のある形状をし、一定の耐滑性能をもっています。



安全靴とひと口に言っても、日本の工業規格より安全性の低いものもあります。

だから、「JIS」のマークが表示された信頼ある商品をあなたの身を守るパートナーに。安全靴の購入時、商品または商品箱にJISのマークが表示されているかご確認ください!

## 日本安全靴工業会

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-15 和光湯島ビル5F 社団法人 日本保安用品協会内  
TEL.03-5804-3125 FAX.03-5804-3126

Clean, Health, Safety  
**KOKEN**



## 新しい送風をリード 呼吸追随 + 内圧監視

### 呼吸にリンクした「快適な送風」

呼吸に合わせた送風によって、マスクを装着しても呼吸が楽!

### 低ランニングコストを実現

一定流量タイプの送風に比べ粉じんの堆積量が最小限に抑えられ、フィルタの消費量の削減につながります。無駄な送風がなく、バッテリーの消耗を抑制。

### 安心の面体内圧監視警報機能

面体内を常に陽圧に保てば、万が一接顔部に隙間が生じて、粉じんが面体内に漏れ込むことを防げます。面体内圧監視警報機能は面体内圧の低下を感知し、ランプで警報します。

「面体内圧監視警報機能」を搭載!  
高圧 フィルタ詰まり  
低圧 バッテリー消耗



水洗いが可能\*で、メンテナンスしやすい!  
※水中に製品を浸漬しての水洗いは出来ません。

JIS T 8157  
電動ファン付き呼吸用保護具 準拠

リカ式 **BL-700H**

防護率 99.9%以上(8級) フィルタの捕集効率 99.9%以上(A級)

**興研株式会社**  
安全衛生ディビジョン

本社 〒102-8459 東京都千代田区四番町7番地 TEL.03(5276)1911(大代表) FAX.03(3261)0589  
URL <http://www.koken-ld.co.jp>

全面形プレスリンクプロフーマスク  
※本製品は全日本労働安全衛生協会認定の安全衛生用品です。  
ファン付き呼吸用保護具の規格が維持されています。

# 改正石綿則対応!

# 感電災害の大きな要因は無知と無視

## —感電災害の防止対策等— (その1)

日本ファシリオ株式会社 安全管理部 部長 向坂 知律  
建災防セーフティエキスパート

### 1. はじめに

電気は殆どすべての工事においてなくてはならないエネルギーとなっている。

しかし、電気による災害は、相変わらず繰り返して発生しており、他の災害が確実に減少しているにもかかわらず感電災害は件数こそ特に多いとは言えないが、減少傾向が明確ではない。

本稿では、建設業における感電災害の「発生状況」、「災害事例」、「感電災害防止対策」および「電気工事関係資格」などについて、2回にわたっ

て解説する。

そこで、感電災害は、感電することを「知らなかった」、絶縁手袋等の保護具の着用を「やらなかった」をなくすことが必要である。

### 2. 建設業の感電災害の発生状況

建設業における感電災害の発生状況は、建設業労働災害防止協会の図書等に概要が示されており、これをまとめると次のとおりになる。

#### (1) 平成11年から平成20年までの全産業および建設業の感電死傷災害（休業4日以上および死亡者数）の発生状況（表-1、2）

表-1 全産業の感電死傷災害（休業4日以上および死亡者数）

年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	合計
死傷者数	180	194	186	157	160	160	151	115	146	148	1,597
死亡者数	33	34	30	16	14	23	28	19	14	21	232

表-2 建設業の感電死傷災害（休業4日以上および死亡者数）と全産業に対する割合

年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	合計
死傷者数	86	91	68	72	71	143	66	51	66	67	781
全産業に対する割合	47.7%	46.9%	36.5%	45.8%	44.3%	89.3%	43.7%	44.3%	45.2%	45.2%	48.9%
死亡者数	23	15	15	11	14	18	21	12	9	15	153
全産業に対する割合	69.6%	44.1%	50%	68.7%	100%	78.2%	75%	63.1%	64.2%	71.4%	65.9%

#### (2) 建設業の平成20年までの直近5年間の月別・電圧別・職種別の感電死亡災害の発生状況（表-3、4、5）

表-3 建設業の月別感電死亡災害

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成16年	1	0	0	1	0	3	4	4	2	1	2	0	18
平成17年	1	0	0	0	1	3	3	5	5	0	2	1	21
平成18年	0	1	0	2	0	0	4	5	0	0	0	0	12
平成19年	0	0	0	0	1	1	2	1	2	1	1	0	9
平成20年	2	0	0	0	0	1	5	1	2	3	1	0	15
合計	4	1	0	3	2	8	18	16	11	5	6	1	75

表-4 建設業の電圧別感電死亡災害

業種	年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	合計
特別高圧		2	1	0	0	1	4
高圧		10	7	2	5	5	29
低圧		5	13	9	4	8	33
落雷		1	0	1	0	1	3
合計		18	21	12	9	15	75

表-5 建設業の職種別感電死亡災害

業種	年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	合計
電工		7	13	2	4	11	37
その他		11	8	10	5	4	38
合計		18	21	12	9	15	75

### 3. 感電災害の多い事例

#### 災害事例 1

#### 土留め用鉄板をアーク溶接作業中に感電

工事の種類：地下駐車場建設工事

災害の種類：感電

被災の状況：死亡 1 名

#### 発生状況

- ① 工事は、道路地下に200台余の地下駐車場（鉄筋コンクリート造、地下3階）建設工事、（掘削深さは20m）において当時、掘削作業は深さ7mまですすんでおり、深さ3.2mのところ有一段目の土留め支保工が設けられていて、地上部には覆工板が設置されていた。
- ② この作業は職長1名以下総勢8名で、2人1組に作業を行った。
- ③ 作業員Aおよび作業員Bの組の作業場所には、足場が設置されており、土留め部の鉄板溶接作業を行うことになっていた。
- ④ 作業を開始し、鉄板にクランプを取り付けてチェーンブロックで土留め部分の上方から所定の位置に吊り上げAおよびBとも2段目の足場に乗って、Bはバールを使って鉄板をくいに押し付け、その後Aがアーク溶接で仮止めするという手順で溶接した。
- ⑤ Bは掘削面に降り、他の作業をしていたが一人ではできなかったため、Aに声をかけたところ、返事がなく、Aは、はしごの3段目の踏面に両足をのせて、はしごに寄りかかって身動きしない状態であった。
- ⑥ Bは、近寄ってAの腰を叩いたところ、ビリィと電気を感じたので、すぐにアーク溶接棒側のケーブルコネクタの接続を取り外し、Aを救出したが、既に死亡していた。
- ⑦ このときにAの顎には、アーク溶接棒ホルダにはさまれた溶接棒が接触したままになっていて、アーク溶接棒ホルダは2段目足場の腕木に掛け渡されていた。

#### 災害の原因

- ① 自動電撃防止装置が作動しない交流アーク溶接機を使用していた。被災時に使用していた交流アーク溶接機には自動電撃防止装置が取り付けられていたが、マグネットスイッチの接点が故障して脱落していたので、2次側端子ホルダ側のケーブルを直結して使用していた。
  - ② 自動電撃防止装置が正常に作動することを確認していなかった。元請および一次下請は、この交流アーク溶接機を現場に持ち込んだ時点でアーク溶接機のテストボタンを押したところ「パン」と音が鳴ったので、正常に作動していると判断してしまった。
  - ③ 交流アーク溶接機を通電状態でホルダに溶接棒をはさんだまま昇降通路に放置していた。Aが昇降しようとしたとき溶接棒が身体に接触してしまった。
  - ④ 気温と湿度が高く、作業員が発汗していた。現場の天井部は、覆工板で覆われており地下であったため、現場の気温と湿度は高くなっており、作業員が発汗し、通電しやすくなっていた。
- なお、Bのアーク溶接特別教育の受講の有無は不明である。

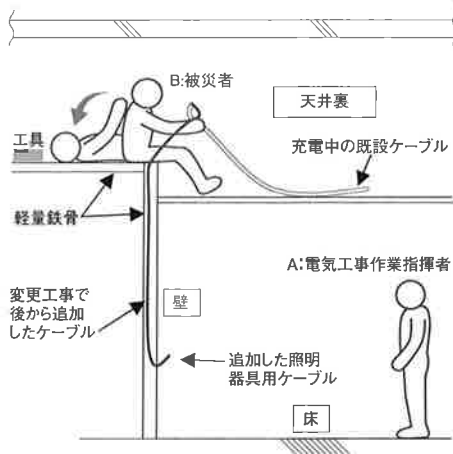


発生状況

- ① 電気工事作業指揮者Aと電気工事作業員Bは照明器具の変更工事を準備した。
- ② Bがケーブルジョイントの準備をして天井内に入り、Aが床面にて壁から天井へのケーブルの通線を行った。
- ③ Aは既設のケーブルの検電をBに指示し、Bは検電器にて既設ケーブルが活線（充電状態）であることを確認し、Aに報告した。
- ④ AはBに、分電盤にて既設ケーブルの電源を切るのを待機するよう声をかけ、Bの確認の返事を聞いた。
- ⑤ Aは停電準備をしたが、他業者がおり、直ぐには停電できないため、改めて待機するよう声をかけ、その後Bの確認の返事を聞いた。
- ⑥ 10分程度のち、Aは、Bに声をかけたが返事がないため、天井内に入って、Bが仰向けに倒れていることを発見した。

災害の原因

- ① Bは経験2年の作業員で電気工事士の免許がなく、低圧電気取扱い業務特別教育の未受講者で電気の危険性等の知識が少なかったと推定されるが、作業資格のない作業員に、特に電気災害の危険性の高い作業をさせた。
  - ・低圧電気の充電部の露出した近くの作業（近接作業）は低圧電気取扱い業務特別教育の受講が必要であった。
- ② 天井裏は軽量下地、金属吊ボルト等の導電材（電気の通りやすい材料）が多く、身体が金属に触れている面積（接触面積）が大きい。また、床面に比べ周囲温度が高いことにより発汗しやすい環境であり、感電災害の可能性が高い状況であった。



4. 建設業の感電災害の分析

以上の発生状況などのデータから次の内容が分析される。

- (1) 全産業および建設業ともに、感電災害の死亡者数は増減を繰り返しているが、他の災害に比べて減少傾向が定かではない（表-1）。
- (2) 建設業の感電災害の死傷者数は全産業の死傷者数の約半数を占めており、死亡者数は66%に達する（表-2）。  
このことは、建設業に働く者は電気の危険性の認識を高める必要があり、事業者による電気取扱い業務特別教育（注：低圧、高圧・特別高圧）の実施などの教育が必要である。
- (3) 感電災害は、以前から言われているように夏に集中しており、夏の期間に感電災害の

危険防止のための点検（安全パトロール）を強化すべきである（表-3）。

- (4) 電圧種別による分析では、低圧の感電災害死亡者数が最も多かった（表-4）。
- (5) 職種による分類では、電工の感電災害死亡者数が約半数を占めた（表-5）。
- (6) 建設業の最近の5年間の死亡災害75件は、電気工事または電気設備・電車用架線に触れた作業員が殆どであるが、他の要因として、天井クレーンのトロリー線と溶接機での感電災害が目立った。

- (注) 低圧、高圧・特別高圧
- 低 圧：交流で600V未満、直流で750V未満
  - 高 圧：交流で600V～7,000V未満、直流で750V～7,000V未満
  - 特別高圧：7,000V以上

(つづく)

URL <http://www.marugo.ne.jp>

強さと軽さに  
履きやすさをプラス。



マンダムセーフティー#714  
カラー:ホワイト/ブラック、ホワイト/レッド  
サイズ:24.5~27、28cm  
¥3,150 (本体価格:3,000円)

鋼製先芯  
衝撃吸収  
軽量  
設計4E



マンダムセーフティー#775  
カラー:ブラック/イエロー、ブラック/グレー  
サイズ:22.5~27、28cm  
¥3,465 (本体価格:3,300円)

穴開き  
鋼製先芯  
衝撃吸収  
通気

確かな安全性、快適性を備えたプロスタイル。



安全プロハックス#870  
カラー:ブラック、ホワイト  
サイズ:23、24~27、28、29cm  
¥3,675 (本体価格:3,500円)

鋼製先芯  
耐油



安全プロハックス#890  
カラー:ネイビー、ブラック  
サイズ:M~SXL  
¥3,360 (本体価格:3,200円)

樹脂製先芯  
履き口フード

鋼製先芯に耐油、  
防滑底と機能で差がつく。

⑤ 株式会社 丸五

本社 / 〒710-1101 岡山県倉敷市茶屋町1689 TEL:086-428-0230(代) FAX:086-428-7551  
東京営業所 / 〒101-0944 東京都千代田区泉涌町1-9-2 高梨ビル5階 TEL:03-5296-1105 FAX:03-5296-1107  
大阪営業所 / 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原5-1-28 新大阪八千代ビル別館4階A号室 TEL:06-6396-8610 FAX:06-6396-8612

軽量樹脂先芯入り

JIS規格L級準拠



現場大王 紺/黒/白  
24.0~28.0 (27.5除く)  
希望小売価格 ¥2,500

優れた履き心地



ファイター 黒  
23.0~27.0, 28, 29, 30 (23.5除く)  
希望小売価格 ¥2,300~

鋼製先芯入り

JIS規格S級準拠



アルカリに有効

S215C スミクロ/グリーン  
M L L L XL  
希望小売価格 ¥3,200

樹脂先芯入り



FR100-200 白/黒/赤他  
23.0~27.0, 28.0, 29.0  
希望小売価格 ¥3,000~

鋼製先芯入り

JIS規格S級準拠



アクア・ゼロ 黒  
24.5~28.0 29.0  
希望小売価格 ¥3,700

鋼製先芯入り

JIS規格S級準拠



HG-207 ブラック/ネイビー/ホワイト/グレー  
24.0~27.0, 28.0 29.0  
希望小売価格 ¥2,800

鋼製先芯入り

JIS規格H級準拠



PA802 ブルー/ベージュ  
24.5~27.0, 28.0  
希望小売価格 ¥2,700

株式会社 **力王** 王昭貿易 株式会社  
<http://www.rikio.co.jp>  
<http://www.ohsho-boeki.com>

東京本部

西日本支店

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-5-11 八重洲中央ビル10F

TEL.03-3275-3311 (代) FAX.03-3275-3164

〒650-0033 神戸市中央区江戸町104番地旧居留地タイホービル3F

TEL.078-321-3261 (代) FAX.078-332-5651

認定安全靴



## メンタルヘルス —(その3)—

医学博士 横浜労災病院 勤労者メンタルヘルスセンター長 山本 晴義



### 1. 仕事のストレスが原因によるうつ病や自殺の労災認定

仕事のストレスが原因によるうつ病や自殺の労災認定件数は、厚生労働省の調べによると2008年度269件にのぼります。この数字は過去10年間伸び続けています。仕事に関するストレスが、メンタルヘル스에究極的な影響として現れるのが、精神的障害への労災認定でしょう。

我が国の精神疾患や自殺による労災認定の判断基準は、1999年に厚生労働省によって初めて示されましたが、今年になってこの基準が10年ぶりに見直されることになりました。この背景には、10年間で企業において組織の再編や縮小、それに伴う人員削減が行われたこと、成果主義の導入など、働く人をめぐる環境が激変したことが関係しています。こうした働く環境の激変の結果、業務の集中化による過重ストレス、人間関係の悪化によるいじめや、パワーハラスメントなど、新たなストレスが生じたと認識され、認定判断基準の見直しにつながったのです。

### 2. 判断基準の見直し

判断基準の見直しでは、「ストレスの要因となる出来事」として、従来の項目に加えて新たに12項目が追加されました。主な追加項目には、「ひどい嫌がらせ、いじめ、または暴行を受けた」（ストレス強度・大）「複数名で担当していた業務を1人で行うようになった」（ストレス強度・中）、「違法行為を強要された」（ストレス強度・中）、「達成困難なノルマが課せられた」（ストレス強度・中）などがあります。

今回の判断基準の改正で注目されたのは、いやがらせなどいわゆる、パワーハラスメントに関する項目が加えられたことでしょう。この項

目が加わったことで、今後、パワハラによるストレスでうつ病などの精神疾患になった人は、労災と認められる可能性が増えるでしょう。

昨年初めて、パワハラを苦にして自殺した従業員への労災を認める判決が下りたこともあり、今後ますます職場のパワハラ・いじめ対策への関心が高まることが予想されます。

### 3. パワーハラスメントとは

それでは、具体的にパワーハラスメントとは、どのようなことを指すのでしょうか。パワーハラスメントとは、和製英語で、この言葉を作った人物によると、

(1) 職権などのパワーを背景にして (2) 本来の業務の範疇を超えて (3) 継続的に (4) 人格と尊厳を傷つける言動を行い (5) 就労者の働く環境を悪化させる、あるいは雇用不安を与えること、という風に規定されています。

しかし、実際にはパワハラを受けている本人も、パワハラを行っている人自身も自分がパワハラを行っているという認識が薄いことが多いようです。

昨年、初めてパワハラが原因で労災認定されたケースでは、上司が、自殺した部下の男性に対して、日頃から「存在が目障りだ。いるだけでみんなが迷惑している。」などの言動を行っていたようです。この上司の言動は、明らかに通常の指導を超えており、この部下の人格まで否定するものです。

被害を受けている側は、一人で悩まずに職場で相談できる人を見つけたり、社内のパワハラ相談室などにぜひ相談してみてください。また、周囲の人もこうした状態を野放しにさせておかないことが必要でしょう。

## 4. ストレス要因となる出来事

それでは、もう少し、うつ病など精神疾患の労災認定基準についてのお話をしましょう。前記からもわかるように、「ストレスの要因となる出来事」は、その種類や内容によって影響度（強度）が異なります。労災認定の評価において強度が「強」と認められれば、うつ病などの精神疾患を発病させるおそれがある程度の心理的ストレスであると評価されます。もちろん、労災認定はこれだけが判断基準になるわけではありません。元々、精神疾患を発症していなかったか、業務以外の心理的ストレスはどのようなものだったのか、また、元々ストレスに弱い性格だったか、アルコールなどに依存していなかったか、社会に適応できていたかなどの個人的な要因も加味して最終的に判断されます。

また、「ストレスの要因となるような出来事」は、多く経験すればするほど心身の健康を害しやすいということがわかっています。したがって、こうしたストレス要因が重ならないように職場で調整していくことも大切です。

## 5. 周囲のサポート力を大切に

しかし、同じストレス状況に置かれても、それほどダメージを受けない人、ダメージを受けやすい人がいます。これには個人の性格や考え方などが影響すると考えられています。（図）さらには周囲のサポートの影響も大きいでしょう。サポートには、具体的に仕事を手伝ってもらったり、アドバイスをもらったり、人間関係の調整をしてもらうといった“道具的なサポート”と、話を聞いてもらったり、励ましてもらうといった“情緒的なサポート”の2種類があります。こうした2種類のサポートを上司や同僚からもらうことができている人は、仕事上のストレスとなる要因があったとしても精神的健康が高いといわれています。

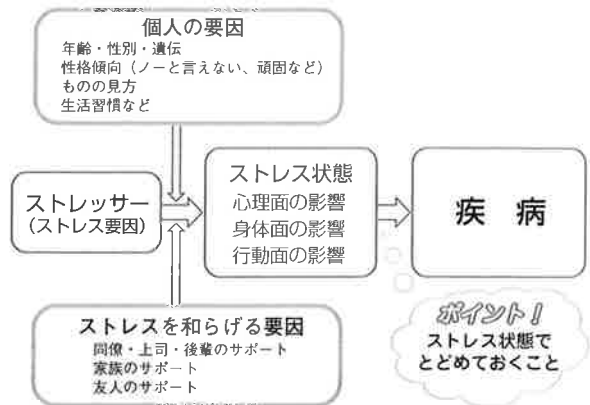


図. 職場におけるストレスモデル  
（米国労働安全衛生研究所の職業性ストレスモデルを一部改訂）

厚生労働省が5年ごとに行う「労働者健康調査」によると、仕事や職業生活のストレスについて、「相談できる人がいる」とする人の割合は90%に近くほびていることがわかります。また、20 - 30代の若い世代が、相談相手として同僚や上司をあげている割合が多いのも嬉しい特徴です。職場に相談相手がいて助け合いができることが、何より、うつ病など精神的な疾患の予防になります。

大事なことは、仕事のストレスの効果的な低減や予防には、個人の努力と組織側の努力の双方が必要であるということです。個人で相談相手を見つけることも大事ですが、相談しやすい環境を職場として作ることも必要です。個人の努力だけでは、職業性のストレスを解消するには限界があり、職場側としてこうした環境側のストレスの発生を低減させていく必要性があります。

こうした双方の努力の末に、職場のメンタルヘルスは成り立っています。

山本先生の「健康管理コーナー」は、今月号をもって一旦終了とさせていただきます。

山本先生には、今後も機会を見て、ご執筆いただきたいと考えております。  
編集部

## ▶ 本部の動き ◀

### 正副会長会開催

9月16日（水）、東京都港区の東京プリンスホテルにて開催され、会議では、第123回常任理事会提出議題について報告された。

### 第123回常任理事会開催

第123回常任理事会が9月16日（水）、東京プリンスホテルにて開催され、会議では、理事の追認、名誉会員の推薦、会費徴収基準の変更承認について審議し、すべて全会一致で承認された。引き続き、創立45周年記念全国建設業労働災害防止大会の結果について報告された。



また、常任理事会終了後、銭高会長より建災防名誉会員証が大島副会長に授与された。



左より大島副会長、銭高会長

### 平成21年度 建災防セーフティエキスパート 委嘱式開催

—平成21年度 新たに5名が委嘱された—

平成21年度の建災防セーフティエキスパート委

嘱式が、9月4日（金）、建災防会議室にて行われ、新たに5名が加わった。

#### ※建災防セーフティエキスパートとは

建災防創立35周年記念事業（平成11年）として、建災防の活動に賛同する、建設企業の安全衛生業務に従事してきた専門家が、知識や経験を伝えるために発足された。

#### セーフティエキスパートの主な活動

- ①当協会の各種委員会委員、建設業安全衛生教育センター講師など
- ②安全衛生に関する調査研究
- ③安全衛生に関する相談
- ④その他、労働災害防止に有用な事項



#### 平成21年度 セーフティエキスパート新規委嘱者名簿

氏名	所属等
こにし 小西 よしと 淑人	元)日本作業環境測定協会 調査研究部 部長
しまだ 島田 けいぞう 敬三	元)鹿島建設株 東京建築支店 安全環境部 担当部長
すがわら 菅原 ひろし 博	五洋建設株 安全環境本部 副本部長
すぎやま 杉山 なおし 直司	建設業労働災害防止協会 埼玉県支部 調査役
にしむら 西村 あきら 章	㈱流機エンジニアリング 代表取締役社長

(五十音順・敬称略)

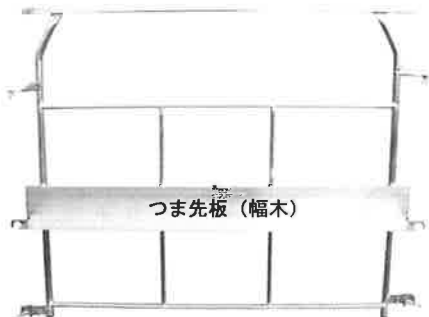
# アルミ一体式先行手すり枠 NISSO Soft Series

墜落・転落、  
飛来落下撲滅の  
カギ握る!!

## セフト Soft Parapetor

改正安衛則(6月1日施行)に適合

- ・先行手すり、二段手すり、幅木、交差筋かいの機能を完備。
- ・手すり枠の上棧は、作業床から932mmの高さ位置。
- ・1.8径タイプで重量は10kg。業界最軽量!・安全帯取付OK!



仮設工業会認定品第一種



つま先板 (幅木)



すきま塞ぎ板付き

## 斜面・法面工専用仮設設備のJIS規格 (番号:A8972) に準拠

### NISSO 法面 series

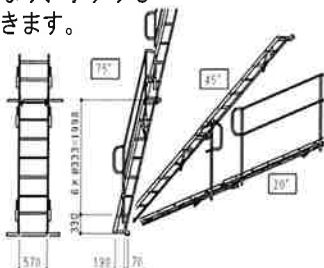
墜落・転落災害  
を防止する

#### 法面2号ユニバーサルユニット自在階段

両側手すり付自重  
本体1.2m型(22.2kg)  
2 m 型(31.5kg)  
3 m 型(38.5kg)

積載荷重250kg

- ・アルミ合金製の為、軽量で持ち運びが容易。
- ・ユニットになっておりますので、従来の単管+クランプのステップに比べると組立・解体・盛替えが簡単。
- ・法面角度20度~75度で踏み面は常に水平となり、手すりも付いていますので安心して作業や移動ができます。



角度が変わっても踏み面は水平!



日綜産業株式会社

<http://www.nisso-sangyo.co.jp>



~ 安全から安心へ ~  
ISO 9001, 14001 & OHSAS 18001

本社 東京都中央区日本橋蛸殻町1-10-1

TEL : 03-3668-2705 FAX : 03-3668-7860

## 埼玉県支部

### 「リスク先取り推進運動 埼玉」県下一斉建設現場 安全パトロールの実施

建災防埼玉県支部は、昨年度から実施している「リスク先取り推進運動 埼玉」の一環として9月2日(水)、埼玉労働局等と合同で真下埼玉県支部長、小川同支部常任顧問、白石同支部事務局長が参加し、「ホンダ寄居新工場建築工事」の現場に対して公開パトロールを実施した。

この運動は、工事現場における「リスクアセスメント」を推進することにより、死亡災害の撲滅と、労働災害の着実な減少を図ることを目的として、次のとおり実施している。

#### 1. スローガン

「リスクの先取り、目指そう現場の危険ゼロ」

#### 2. 期間

実施期間 平成21年4月1日～平成22年3月31日  
 強調月間 平成21年9月1日～平成21年9月30日

#### 3. 主唱者

- 建設業労働災害防止協会 埼玉県支部・各分会
- 埼玉労働局・各労働基準監督署

#### 4. 「リスク先取り推進運動 埼玉」の実施の方法

重大な災害に結びつく危険の芽を徹底的につみ取ることにより、災害ゼロの現場づくりを達成するため「リスク先取り推進運動 埼玉」を表-1の手順により「建設現場リスク先取り表」(表-2)を使用して実施している。

本運動の強調月間として、県下一斉パトロールを、各分会安全指導者を中心として、埼玉労働局や監督署の監督官、安全担当職員など144名が参加し、県内の72工事現場で実施した。

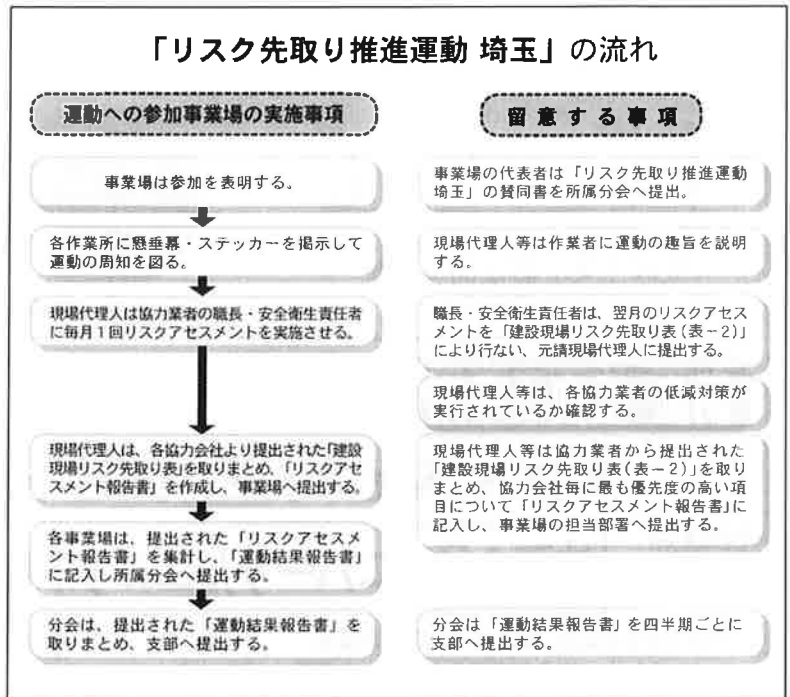


表-1 「リスク先取り推進運動 埼玉」の流れ

( ) 月度 建設現場リスク先取り表

「リスク先取り推進運動 埼玉」

工 事 名	業 種	作業内容	実施日	従 業 員
〇〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
危険のポイント(手懸り等)の種類				
行動目標(私語等はこらえる)				
今日の重点行動目標				
3 3 6 5				
① 危険な作業は必ず安全確認を怠らぬこと ② 危険な作業は必ず安全確認を怠らぬこと ③ 危険な作業は必ず安全確認を怠らぬこと ④ 危険な作業は必ず安全確認を怠らぬこと ⑤ 危険な作業は必ず安全確認を怠らぬこと ⑥ 危険な作業は必ず安全確認を怠らぬこと ⑦ 危険な作業は必ず安全確認を怠らぬこと ⑧ 危険な作業は必ず安全確認を怠らぬこと ⑨ 危険な作業は必ず安全確認を怠らぬこと ⑩ 危険な作業は必ず安全確認を怠らぬこと				

表-2 建設現場リスク先取り表



写真-1 苧谷埼玉労働局長

写真-2 松本統括所長



写真-4 現場パトロール

今回、公開パトロールを実施した「ホンダ寄居新工場建築工事」は埼玉県大里郡寄居町の約100万㎡の山林を切り開き、車体製造工場と附帯設備の新築工事で建築面積は約22万㎡、ABCの3工区と駐車場の4ブロックに分かれて大成建設株式会社と清水建設株式会社で施工している。現在、敷地造成工事は終了し、工場棟などの鉄骨建方工事を行っている。

当日パトロール開始前、事務所前広場に集まった約840名の工事関係者に対し、苧谷埼玉労働局長から、「皆様方の日頃から作業の安全確保に努力いただき敬意を表する。このホンダ工場新築工事では、皆様の豊富な経験を生かしつつ、その上で基本のルール、手順をしっかりと守って、安全作業に心がけてもらいたい。工事竣工後、当工場が本格稼働することに埼玉県民は大きな期待を寄せてい

る。」と挨拶があった。また、松本統括所長（大成建設株）から「世界のホンダの最新工場の新築工事に携わったことで、自信を持って作業に当たり、安全に作業を行ってほしい。」と指示があり、ABC工区各棟のパトロールを実施した。

パトロール終了後、真壁同労働局安全衛生課長から「大規模作業現場で安全管理が難しいにもかかわらず、作業現場は整然としており感心した。安全衛生関係法令に沿って安全管理計画を立てて作業を実施している。」との講評があった。

真下埼玉県支部長からは「リスク先取り推進運動 埼玉にも賛同してもらい、墜落・転落災害防止にも努められて感謝する。」と挨拶があり、今回の「リスク先取り推進運動 埼玉」公開パトロールを締め括った。



写真-3 工事関係者集会



写真-5  
真壁埼玉労働局安全衛生課長

写真-6  
真下埼玉県支部長

平成21年度講習会のご案内 ー建災防ー

	講座名・開催日	講座概要・対象者
	<p><b>安全管理者選任時研修(建設業)</b>                      東京会場(東京都港区 産業安全会館)                      ・平成21年10月22日(木)～23日(金) <b>受付中</b>                      2日間講習 受講料 14,000円</p>	<p>建設業においては、常時50人以上の労働者を使用する事業場では安全管理者を選任し、その者に職場の安全に係る技術的事項を管理させなければならないとされています。労働安全衛生規則が改正され、平成18年10月1日以降は、安全管理者選任時に従来の実務経験に加え厚生労働大臣が定める研修「安全管理者選任時研修」を修了していることが義務づけられました。この研修は、通達に基づいて実施する研修です。</p>
	<p><b>石綿取扱い作業従事者特別教育講師養成講座</b>                      東京会場(東京都港区 産業安全会館)                      ・平成21年10月29日(木) <b>受付中</b>                      ・平成22年1月 <b>予定</b>                      1日間講習 受講料 18,500円                      (保護具の実技で使用する防じんマスク代が含まれています)                      ※ 実技で使用する防じんマスク(RL3型の半面形の取替式)を持参の方は、受講料15,000円となります。                      ※ 防じんマスクは衛生上の理由等により貸与いたしません。</p>	<p>平成17年7月1日より「石綿障害予防規則」が施行され、作業には、特別教育修了者を就かせることが義務づけられています。(安衛則第36条第37号、石綿則第27条)なお、厚生労働省告示第23号により平成21年4月1日より特別教育時間が従来の4時間から30分延長され、4時間30分へ変更されました。また、平成18年9月にもすでに改訂が行われた事項もあります。この講座は、この特別教育の講師を養成する講座です。テキストは、平成21年4月1日刊行のものを使用します。</p>
	<p><b>現場管理者統括管理講習講師養成講座</b>                      東京会場(東京都港区 産業安全会館)                      ・平成21年11月12日(木)～13日(金) <b>受付中</b>                      2日間講習 受講料 21,000円</p>	<p>この講座は、常時50人未満の統括管理を必要とする建設現場を対象として、現場での統括管理を行う管理者などの資質の向上教育や指導を支援するため、講習の講師や指導者を養成する講座です。</p>

申込方法 事前に電話で確認・予約のうえ、所定の申込書でFAXか郵送にてお申込みください。

申込み・問合わせ先 〒108-0014 東京都港区芝5-35-1 産業安全会館7階  
 建設業労働災害防止協会 教育部  
 TEL 03-3456-0618(直通) FAX 03-3456-2458

- ☆ 予定につきましては、日程が決定次第「建設の安全」ホームページ<http://www.kensaibou.or.jp>等でお知らせいたします。
- ☆ 都合により日程・時間・会場等が変更になることがあります。
- ☆ 講座概要等詳細については、ホームページをご覧ください。

ホームページから申込書をダウンロードできます!



「平成21年度安全衛生技術講演会」開催の御案内

独立行政法人労働安全衛生総合研究所は、職場における労働者の安全と健康を確保するため、総合的な調査研究機関の活動として、講演会を開催いたします。

**テーマ 「労働安全衛生分野におけるリスクアセスメント」**

1 開催日および開催場所

- 11月9日(月)(大阪会場) **KKRホテル大阪 3階会場「銀河」** 〒540-0007 大阪市中央区馬場町2-24  
 TEL: 06-6941-1122(代表) 交通機関: JR環状線「森ノ宮」駅下車徒歩10分、地下鉄中央線・長堀鶴見緑地線「森ノ宮」駅下車7番B出口より徒歩10分、地下鉄中央線・谷町線「谷町四丁目」駅下車9番出口より徒歩10分
- 11月20日(金)(東京会場) **女性と仕事の未来館 4階ホール** 〒108-0014 東京都港区芝5-35-3  
 TEL: 03-5444-4151(代表) 交通機関: JR「田町」駅下車三田口(西口)より徒歩3分、都営浅草線・三田線「三田」駅下車A1出口より徒歩1分
- 11月25日(水)(名古屋会場) **名古屋国際ホテル 2階会場「若竹・紅梅の間」** 〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目23-3  
 TEL: 052-961-3111(代表) 交通機関: 地下鉄東山線栄駅下車8番出口より徒歩2分

2 参加申し込み方法

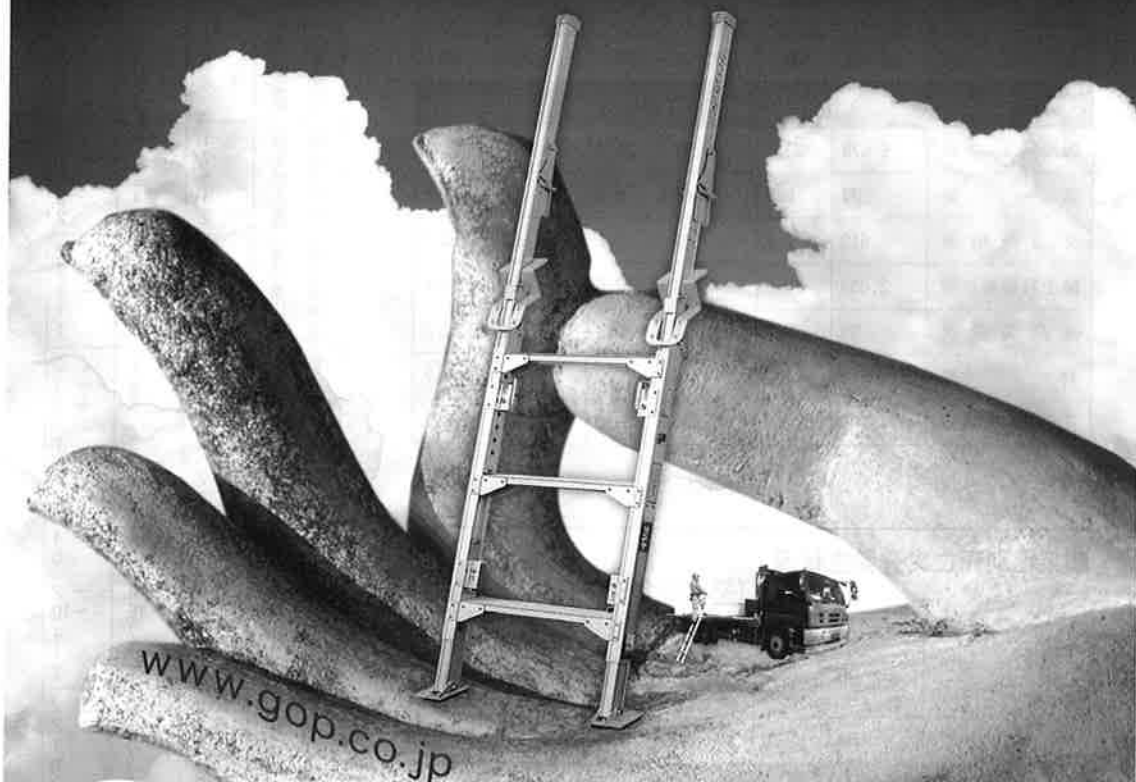
参加費: 無料  
 申込方法: 参加希望者は、E-mail、FAX又ははがきで、各会場講演日1週間前までに下記へお申し込み下さい。  
 参加申込書には、「講演希望」と記入し、希望会場、会社所在地、会社名および御所属部署、氏名(複数の場合は代表者)、人数、電話番号、FAX番号、E-mailアドレスを明記して下さい(これらの個人情報、本講演会以外の用途には使用いたしません)。  
 定員は、各会場200名です。申し込み先着順に受け付け、定員に達し次第、締め切らせていただきます(締め切り以降のお申し込みの場合には、その旨御連絡いたします)。

3 連絡先

〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-4-6  
 (独)労働安全衛生総合研究所 労働災害調査分析センター 担当: 清水  
 TEL: 042-491-4512(代) FAX 042-491-7846 E-Mail: h21kouen@s.niosh.go.jp



# ALT-3 from GOP



アルミ合金製  
可搬式作業台



アルミ合金製  
可搬式作業台



階段用作業台



可搬式  
手摺付き作業台



折畳・連結式作業台



多目的  
軽量アルミ6輪台車



トラック  
昇降用はしご



型枠昇降用はしご



型枠支保金具



植栽フロート型  
水質改善装置

ジー・オー・ピー株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-8-5 東洋ビル 7A

【ご注文・お問い合わせ】 050-3533-9473 電 03-5449-1931 / Fax 03-5449-1935

# 死亡災害 対前年同期比35人減 <-16.6%>

■業種別死傷災害発生状況(死亡災害及び休業4日以上)  
(平成21年6月末日現在速報値)

業種	平成21年 1月～6月		平成20年 1月～6月		対20年比較	
	死傷者 数(人)	構成比 (%)	死傷者 数(人)	構成比 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)
全産業	28,452	100.0	31,706	100.0	-3,254	-10.3
建設業	5,762	20.3	6,460	20.4	-698	-10.8
製造業	6,576	23.1	7,831	24.7	-1,255	-16.0
鉱業	77	0.3	66	0.2	11	16.7
交通運輸業	619	2.2	562	1.8	57	10.1
陸上貨物運送業	3,633	12.8	4,054	12.8	-421	-10.4
港湾荷役業	60	0.2	86	0.3	-26	-30.2
林業	640	2.2	589	1.9	51	8.7
その他の事業	11,085	39.0	12,058	38.0	-973	-8.1

■建設業における死亡災害  
の発生状況(平成21年8月7日現在)

都道府県名	年別 21年 1～7 月計	20年 1～7 月計	対前年 比較
北海道	11	12	-1
青森	1	4	-3
岩手	3	3	0
宮城	6	5	1
秋田	2	3	-1
山形	1	2	-1
福島	7	6	1
茨城	5	4	1
栃木	1	4	-3
群馬	2	0	2
埼玉	9	7	2
千葉	5	14	-9
東京	9	14	-5
神奈川	9	8	1
新潟	6	5	1
富山	1	1	0
石川	1	4	-3
福井	0	3	-3
山梨	2	1	1
長野	4	3	1
岐阜	2	3	-1
静岡	7	10	-3
愛知	7	10	-3
三重	0	4	-4
滋賀	2	2	0
京都	4	6	-2
大阪	9	19	-10
兵庫	11	7	4
奈良	2	1	1
和歌山	4	2	2
鳥取	2	0	2
島根	3	1	2
岡山	1	0	1
広島	3	3	0
山口	3	0	3
徳島	2	1	1
香川	2	2	0
愛媛	1	4	-3
高知	2	0	2
福岡	10	16	-6
佐賀	0	1	-1
長門	2	3	-1
熊本	4	4	0
大宮	2	5	-3
鹿児島	0	1	-1
沖縄	3	3	0
合計	176	211	-35

■業種別死亡災害発生状況  
(平成21年8月7日現在速報値)

業種	平成21年 1月～7月		平成20年 1月～7月		対20年比較	
	死亡者 数(人)	構成比 (%)	死亡者 数(人)	構成比 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)
全産業	508	100.0	645	100.0	-137	-21.2
建設業	176	34.6	211	32.7	-35	-16.6
製造業	91	17.9	137	21.2	-46	-33.6
鉱業	7	1.4	6	0.9	1	16.7
交通運輸業	2	0.4	19	2.9	-17	-89.5
陸上貨物運送業	54	10.6	75	11.6	-21	-28.0
港湾荷役業	3	0.6	3	0.5	0	0.0
林業	26	5.1	23	3.6	3	13.0
その他の事業	149	29.3	171	26.5	-22	-12.9

■お詫びと訂正

本誌9月号(No.456)の36ページ【災害統計】の「業種別死傷災害発生状況(死亡災害及び休業4日以上)」とありますが、同表の数値は、「重大災害発生状況(平成21年6月7日現在速報値)」の統計表となります。お詫びして次の正誤表のとおり訂正いたします。

正誤表

表題及び内容	
誤	業種別死傷災害発生状況(死亡災害及び休業4日以上 平成21年6月7日現在速報値)
正	重大災害発生状況(平成21年6月7日現在速報値)



ラバー  
**2**層底  
**Rubbertec**<sup>®</sup>  
made to work

RT722 ブラック

しなやかで快適な履き心地と耐久性を両立。さらにウレタン底では耐えられない熱場環境でも大丈夫。



抜群のしなやかさと、耐久性を実現。  
ゴム底を2層にした、日本人のための  
新しい安全靴「ラバーテックシリーズ」<sup>®</sup>。



**M** **ミドリ安全株式会社**

安全靴・作業靴のことなら <http://midori-fw.jp/>

ISO14001:2004・ISO9001:2000 認証取得：ミドリ安全は、環境と品質の国際規格に準拠した安全靴の製造・販売を行っています。

安心、ひろがる。

- 建設業界による自主的な共済制度で掛金が安い。
- 元請・下請問わず無記名で補償。
- 元請・下請それぞれの契約者へ重複支払い。
- 企業の諸費用部分も補償。
- 事業主(契約者)への速やかな支払い。
- 経営事項審査において15点の加点。

## 法定外労災補償制度 建設共済

### 財団法人 建設業福祉共済団

(厚生労働省・国土交通省共管)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-15 虎ノ門NSビル

■ 取扱機関：各都道府県建設業協会

「建設共済」の他にも、次のような事業を行っています。

#### 育英奨学事業

被災者(死亡および身体障害・傷病3級以上)の子供に対して、要保育期間および小学校から大学までの在学期間中、返済不要の奨学金を継続して給付。

詳しい情報、掛金試算などのお問い合わせは

Tel.03-3591-8451

<http://www.kyousaidan.or.jp/>